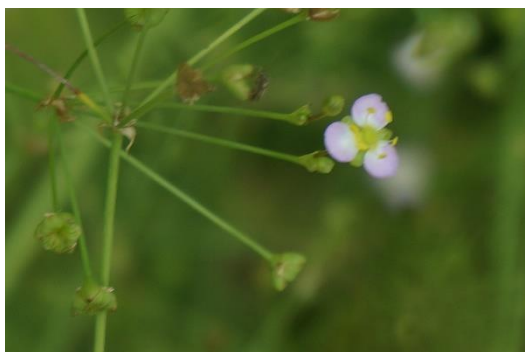


薬草園かわらばん

皆さんちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2017年
8月2日
第18号



サジオモダカ（オモダカ科）

多年草、さじ（スプーン）形の葉のオモダカでサジオモダカ。寒冷地の水田の雑草として生え、自生地は東アジアの沼沢。日本では古く各地で栽培され、江戸時代には陸前（仙台）のものが良品とされました。2015年には東日本大震災の津波被災地で自生しているのが見つかり、新聞にも取り上げられていました。周皮を除いた塊茎を生薬タクシャ（沢瀉）と呼び、利尿、止渴、鎮うん、止瀉などの目的に使用されます。漢方薬では、五苓散、当帰芍薬散、八味地黄丸などに利水滲湿薬として配合されます。

ヒオウギ（アヤメ科）

主に観賞用とされる多年草。近頃は自生地の環境悪化で激減しているようです。葉の姿が十二単衣の貴婦人が持つ、ヒノキの薄板を並べて糸でとじた檜扇（ヒオウギ）に似ていたためこの名がついたとのことです。晩秋から冬にかけて付いた実が裂開して、黒色の光沢のある種が出てくる。これを「ぬばたま」と呼び、和歌では「黒さ」を表す枕詞として登場します。乾燥した根茎を生薬ヤカン（射干）と呼び、鎮咳、去痰薬として用います。

今、こんな草木が楽しめます。
待ってまーす！！

